

SPOTLIGHT

〔特別企画〕 感染症医療人育成センターをスタート！

長崎大学病院

Nagasaki University Hospital

全国の地域や医療機関の
「人」「コト」「取り組み」を
紹介するスポットライト



長崎大学病院
感染症医療人育成センター
(感染症ハブセンター)
センター長・教授

古本 朗嗣

Akitsugu Furumoto

長崎大学は、感染症対策に
従事できる医療人の人材育
成・強化のため「長崎大学病
院感染症医療人育成セン
ター」を2021年4月に開
設した。

古くは江戸時代末期、出島
を介して広がったコレラな
どの感染症に対し、長崎大学
はこれまで防波堤としての
役割を果たし、さまざまな感
染症の脅威と対峙してきた。
今年開設160周年を迎え、
感染症を専門とする人材育
成・強化へ本格的に乗り出し
たことには大きな意義がある。

日本の感染症教育をリードし、
国際的にも活躍できる
感染症医療の専門家を育成

聞き手／ドクターズマガジン編集部 文／田口素行 撮影／松村琢磨



PROFILE / Akitsugu Furumoto

1995年、鹿児島大学卒業後、長崎大学医学部附属病院熱研内科（感染症内科）。市中関連病院をローテーションした後、2004～2006年、Department of Microbiology, The University of Iowaリサーチフェロー。2006年より長崎大学病院感染症内科。2015年、長崎労災病院感染症内科部長。2020年、十善会病院感染症内科部長。2021年4月、長崎大学病院感染症医療人材育成センター長に就任。専門分野は臨床感染症学。



2020年から世界中で猛威を振るうCOVID-19パンデミックは日本でも流行の波が一気に押し寄せ、全国各地の医療提供体制を崩壊寸前にまで追い込んだ。そこで浮き彫りになったのは、国内で感染症を専門とする医療従事者の圧倒的な人材不足である。

さらに近年は、薬剤耐性菌の増加や、途上国の開発に伴い未知の病原体に遭遇する機会も増え、グローバル化により世界的にパンデミックが生じやすい状況にあるなど、感染症による危機が高まり続けている。このような状況下での感染症対策には、学際的に幅広い視点でアプローチできる人材育成が重要となる。

長崎大学では、この喫緊の課題解決のために、2021年4月、「長崎大学病院感染症医療人材育成センター」を開設する。日本の感染症医療をリードする

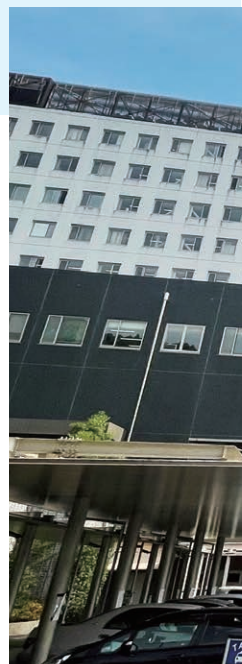
感染症医療の人材育成は 長崎大学の大きな責務である

長崎大学が、感染症医療を専門とする人材育成・強化に向けて本格的に始動した。センター長である古本朗嗣氏は言う。

「感染症医療に携わる人材は専門的なトレーニングを受ける必要があり、トレーニング修了後も継続的な知識の更新や、スキルを高めることが要求されます。このような感染症分野の専門的トレーニングや生涯教育の場を作ることが、これからの長崎大学の責務であると思います」

センター長の古本氏が感染症医療の人材育成・強化を、長崎大学の「責務」と言い切るには大きな理由がある。

長崎県と感染症との闘いには長い歴史があり、古くは江戸時代以来にまでさかのぼる。当時の長崎は日本で唯一世界に開かれた窓であり、インフルエンザ、コレラ、天然痘など外国からの感染症は長崎を起点に日本中に広



まっていた。また、長崎は五島、壱岐、対馬など多数の島々を抱え、フィリリア症などの寄生虫病が猛威を振るった地政学的特性を持つ。第二次世界大戦時にも長崎市内では2万人を超えるデング熱のアウトブレイクがあった。

一方で、牛痘が1848年にドイツ人医学者モーニッケにより長崎に伝えられるなど、感染症における当時の最先端医療も長崎を起点に日本中へと普及した。同時期（1857年）には、オランダ人医師ポンペが現在の長崎大学の前身となる長崎奉行所西役所内の「医学伝習所」を、1861年には日本最初の西洋式近代病院として「長崎小島養生所」が開設された。感染症対策は長崎大学の創成期から続く最重要課題であり、1942年には「東亜風土病研究所」が設置され、その後の公衆衛生の改善に伴い19

日本の感染症医療をリード してきた教育研究拠点として

60年代には日本中の寄生虫病がほぼ制圧された。1967年には「熱帯医学研究所（熱研）」と改称し、その後、ケニアやベトナムに海外研究拠点が設置されるなど、熱帯医学における拠点として先導的役割を果たしている。

2020年には長崎港に停泊していたクルーズ船におけるCOVID-19クラスターの対応で、長崎大学の医療人や研究者が活躍したことは記憶に新しい。

「長崎大学では医学部、歯学部、薬学部、大学病院、熱研、水産学部と幅広い分野において、免疫学、微生物学、疫学、臨床感染症学、感染制御学など、さまざまな感染症分野の臨床、研究が盛んに行われています。創立から現在まで日本の感染症分野をリードする教育研究拠点であり続けてきました。感染症リスクが増加している世界状況の中で、その責務

センター長である古本朗嗣氏に、センター設置の意義と役割について解説してもらった。

を全うするには包括的で持続性のある新たな感染症専門教育の場を作る必要があると感じていました」

長崎大学は、他にはない感染症研究に関する豊富なリソースを持つ大学であり、長く培われた幅広い知見によって感染症分野に強い数多くの人材を育成・輩出してきた。

「長崎大学には感染症について臨床、研究、教育を行っている部門が複数あり、それぞれが独自で活動をしていました。以前から感染制御教育センターの泉川公一先生、感染症内科の有吉紅也先生らと、これら複数の感染症に関連した部署が有機的に結びつくことで、今後の感染症対策に必要な、多面的で学際的な感染症の専門教育ができるのでは」と話し合っていました」

そんな時期に発生したのがCOVID-19パンデミックであり、この話し合いは迅速に実現化していく。長崎大学の河野茂学長の主導によって臨床感染症分野での人材育成について学内で本格的な議論が繰り返され、「感染症医療人育成センター」が誕生することになった。COVID-19は、医師の感染症への意識を大きく変え、新たに学んでみたい

という声も増えている。

全国から長崎大学に見学に来る医学生からも感染症関連の科は非常に人気が高い。

「感染症医療人育成センター」では、長崎大学病院と感染症医療に強い協力関連施設を臨

床研修の場とし、感染症分野の豊富なリソースを生かした『感染症研修プログラム』を提供することで、あらゆる場面で活躍できる感染症医療に強い人材を育成していく。

「長崎大学病院の呼吸器内科（感染症班）、感染症内科、感染制御教育センター、臨床検査科・検査部（微生物検査室）、小児の感染症も学ぶことができる小児科、さらに感染症医療に定評のある協力医療機関との連携により、各科、各協力病院の高度な感染症医療を多面的に習得できます。感染症専門医の養成だけではなく、あらゆる場面で感染症対策に従事できる医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師らの医療人を育成し、さらに感染症分野の、生涯教育・学習できる場も提供していきます」

豊富なリソースを生かした 多面的な専門教育を提供

研修プログラム』には以下の4つのコースが用意されている。①感染症専門医取得を目的とした『感染症専門医コース』、②診療科を問わず感染症診療について学びたい医師向けの『ベーシックコース』、③感染症専門医やICD（インフェク

ションコントロールドクター）などの専門資格者向けにさらなる専門研修を提供する『リフレッシュコース』、④初期研修医向けで感染症診療、感染対策、微生物検査についての原則を学ぶことができる『初期研修医感染症特化コース』だ。

「感染症専門医コース」では、『国際医療研究センター病院』や『聖路加国際病院』における大都市部での感染症研修、「名古屋医療センター」でのHIV診療研修、「長崎原爆諫早病院」での結核診療研修など国内留学も可能だ。『ベーシックコース』『リフレッシュコース』では、3カ月コース、半年コース、1年コースが設けられるなど、各医師の目標、目的、状況に即して学ぶことができる。センター長の古本氏は自信を持ってこう言う。「感染症について、高度な臨床

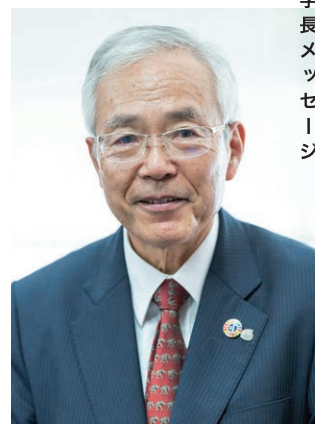
Message × NAGASAKI UNIVERSITY / President

国立大学法人 長崎大学 学長 河野 茂 / Shigeru Kohno

長崎大学は『地球の健康のために貢献する大学 (For Planetary Health, Nagasaki University)』となることを宣言しています。私たちの住む地球の環境、すなわち地球の健康を脅かす原因として感染症の世界的流行や薬剤耐性菌の関与なども注目されています。地球の健康を回復、維持するには感染症の制御も重要な課題ですが、これらの課題を克服するにあたり、感染症臨床分野における人材育成、教育について討議

を重ねました。

このセンターを中心に、日本全国より多くの医療従事者を受け入れ、高度なスキルと専門知識を持った臨床・研究・教育に長けた感染症医療従事者の養成をいたします。感染症医療においても日本をリードする存在となるため、医学部、大学病院および熱帯医学研究所の豊富なリソースを活用し、感染症の基礎研究をベースに臨床検査体制や臨床研究の構築を行っていきます。



長崎大学
学長メッセージ

News Release

感染症専門の人材育成・支援を目的に 長崎大学と民間会社がタッグ



長崎大学では、感染症専門の医療人材の育成と支援を目的に、本誌「DOCTOR'S MAGAZINE」を発行するメディカル・プリンシプル社と2021年7月9日に包括協定を結んだ。国立大学と民間の医師紹介会社との協定締結は国内初。「長崎大学病院感染症医療人育成センター」の活動などをメディカル・プリンシプル社のネットワークを通して全国の医療人に発信していく。

「メディカル・プリンシプル社は“医師の生涯価値の向上”の理念の下、医師の生涯にわたるキャリア形成を支援するため、さまざまな事業に挑戦してまいりました。医学生への就職支援事業の『レジナビ』や医師紹介事業、医師・医学生向けの月刊ヒューマンドキュメント誌『DOCTOR'S MAGAZINE』の発行や若手医師向けサイト『民間医局コネク』の運営など、医師・医学生に向けた全国規模の情報発信は多岐にわたります。今回の長崎大学の“感染症医療人の育成”という重要な取り組みに、日々医療従事者と向き合う当社も賛同し、当社のあらゆるルートを活用し、その広報・情報発信の一翼を担って、当社の社会的使命を果たしてまいります」



株式会社
メディカル・プリンシプル社
代表取締役社長

由良 芳 透

Yoshitsugu Yura

研究、教育を行っている部門が複数ある長崎大学だからこそ可能な研修プログラムであり、ミ、コロナ時代の感染症対策に必要な、多面的で学際的な視点によるアプローチ能力をしっかりと獲得することができます」

さらに、これからの感染症対策には、職種や診療科に関係なく、より多くの医療人が感染症の専門的知識を得ることが重要だ。感染症医療の知識と経験を持つ人材が増えることは、日本の感染症対策の大きなボトムアップにつながる。そこで大切となるのがセンターや感染症医療に関する情報発信・広報活動である。長崎大学では、医師のキャリア・コンサルティング活動を行う「メディカル・プリン

シプル社」と協定締結を行い、センターの活動や感染症についてのさまざまな情報を全国の医学生や研修医に向けて発信していく。国立大学と民間の医師紹介会社との協定締結は国内初であり、近代西洋医学教育発祥の地として新しい手法をいち早く取り入れ、さまざまな改革を迅速かつ大胆に推進してきた長崎大学だからこそ実現した、先進的な取り組みの一つだといえる。

増大する感染症の危機から 人類を守る重要なキャリアに

代の医師に伝え、世界のあらゆる場面の感染症対策で活躍できる人材を一人でも多く輩出していきたいです」と、センター長の古本氏は力強く語った。

「感染症医療人育成センター」の『感染症研修プログラム』では全国から医師を募集している。感染症は世界の年間死亡者数の3分の1を占め、人々の健康や社会活動に与える影響はとてつもなく甚大だ。あなたの履歴書に刻まれる「長崎大学病院感染症医療人育成センター」の名は、多くの日本国民、そして世界中のあまたの人々の命を救う重要なキャリアとなるに違いない。

Mission

「長崎大学病院感染症医療人育成センター」のミッション

Mission 01 医療従事者の感染症専門研修プログラムの運営

長崎大学関連の感染症学に関するリソースの連携、協力を通じて、高度な知識とスキルを持ち合わせた次世代の医師をはじめとした医療従事者を育成していくための研修プログラムを立案、運営していきます。

Mission 02 感染症医療従事者のキャリアサポート

研修修了後のキャリアについてサポートします。また、感染症医療に興味を持つ医療従事者のキャリア相談を受け、各個人に応じたキャリアプランを提案します。

Mission 03 感染症医療従事者の生涯学習の場を提供

大学病院内の各部署の協力を得ながら、各医療職の感染症関連の有資格者に対してリフレッシュ研修プログラムなどを通して生涯学習の場を提供します。

Mission 04 感染症医療従事者のネットワーク構築による社会貢献

研修修了後も支援を行い、修了生によるネットワークを構築し、修了生の活動を通して、感染症医療の充実を図り、人材育成による社会への貢献を果たしていきます。